



伊藤貴則がLIDET UWFにこだわる理由

## 「田村潔司を 見返したいんです」

3・8新木場で“絶対王者”中嶋勝彦から逆転勝利を奪い、LIDET UWF世界王座新チャンピオンとなった渡辺壮馬だが、ベルト封印の意思は変わらず。そこに待ったをかけたのが、井土徹也との次期挑戦者決定戦に勝った伊藤貴則だった。両者のタイトルマッチは4・8新宿FACEにておこなわれる。GLEATスタート時から向き合ってきたUWFスタイルだが、継続すること自体に賛否両論ある中、伊藤は一貫して強いこだわりを持ち続けている。その根源には何があるのか聞いたところ、実に生々しい理由を明かした。

(聞き手・鈴木健.txt)

## 壮馬に負けた中嶋が耳打ちしたことは… ナメた態度で来たにすぎないと思った

——まず、LIDET UWFタイトルをめぐる一連の流れに関し、思うところを改めてお聞かせください。

**伊藤** 僕がああのベルトを中嶋勝彦に獲られたあと、自分のケガだったり交通事故だったりがあって、ずっと獲り返したい気持ちはあるんだけど獲り返せないという状況が続いて、傍から見たら中嶋勝彦の好きなように扱われて自分たちの目指していたLIDET UWFが全部壊されたと映っていました。

——壊されたという受け取り方なんですね。

**伊藤** 同時に、フザケンな!っていう気持ちもいっぱいだったし。アレは自分たちが最初に目指していたのとは違うものですから。僕らが表現していたものには殺伐感や緊張感があったし、その中で歯を食いしばってやってきたのに、中嶋勝彦がチャンピオンになった以後は自己満足にしか見えなくて。自分がケガをして闘いの中に

参加できなかったのが悪いのはわかっているけど、LIDET UWFが伸び悩むのはチャンピオンの責任だと思うんで。だからチャンピオンがあれだけ殺伐感のないフザけた試合ばかりやっているのが、現状に表れている。そうなる前になんとかしたくても、出られなかったジレンマもあったし。

——現実として、3・8新木場で渡辺壮馬選手に逆転負けを喫しベルトを明け渡すまでは7連続防衛と、誰も止められなかった。それほどの強さを中嶋選手は発揮していました。

**伊藤** ええ、強いのは認めます。自分も負けているわけだから(2024年7月1日、TDCホール。第2代王者・フジタ“Jr”ハヤトが返上し、新王者決定戦を中嶋と争うもレフェリーストップで敗北)。でも、そこに殺伐感があったかどうかといったら、僕はあったとは見えなかった。強さと姿勢は、別じゃないですか。結局、中嶋勝彦からはLIDET UWFをどうしたいかというのが見えなかったんですよ。

——2・11後楽園ホールで青木真也選手に勝ち防衛したあと、その場で挑戦に名乗りをあげようとは思わなかったんですか。

**伊藤** それは正直、ありました。ただ、獲られてからずっと欠場して、交通事故で手術もして何もできなかった自分には一切の実績がなかった。だから自分には挑戦する資格がないって思ったんです。なんの実績もあげていない人間がいったところで、お客さんも納得しなかったでしょう。でも、あいつからベルトを獲り戻したいという思いは僕が一番強いはず。それは井土でも壮馬でもない。なぜなら、負けた本人だからです。

——それが中嶋選手の封印宣言で実績を作るところではなくなったと。

**伊藤** そうです。さんざん好き勝手に遊んだ揚げ句に封印するってなんだよ!?ってなるじゃないですか。飽きたらポイ捨てって、結局はあのベルトに対する思い入れなんてそんなもんですよ。中嶋には初代王者トーナメントに出場した人間がどんな思いをしたかわかるはずもない。本当に、あれは精神的にもやられましたからね。——渡辺壮馬選手も同じことを言っていました。だからこそ、LIDET UWFにこだわりたいし、こだわるがゆえの自分の手で封印するという考えになったと。

**伊藤** うん、一生忘れることのできない経験を僕も壮馬もしたということです。今までで一番怖さを感じたし、その怖さに打ち克つために僕はいろいろなものを懸けた。何より、あのトーナメントに出場した選手の中で一番責任を感じたのは自分のはずです。俺が獲らなきゃいけない、誰にも獲らせたくないっていう気持ちがプロレス人生の中でも一番強かった。

——それほどのトーナメントに優勝して初代王者になったことで、伊藤選手は逆に背負ってしまったと思うんです。それはLIDET UWFそのもの、LIDET UWFのベルト





だけでなく、あのトーナメントで敗れた選手たち(青木、渡辺、田中稔、飯塚優、井土徹也、田村男児、佐藤光留)の存在までを。

**伊藤** 本当に、そういう思いでした。あのメンバーで、本当の意味で生き残るための闘いをしたわけだから、生き残った人間がLIDET UWFに対してどう向き合うかはずっとついて回る。それを僕自身の意志とはまったく関係のないところで封印なんてされたら、たまったもんじゃないですよ。

——その中嶋選手の宣言に黙っていられなかった伊藤選手、井土選手、壮馬選手が名乗りをあげたわけですが、会社の判断は壮馬選手が挑戦となりました。

**伊藤** ちょっと手をあげたのが早かったっていうだけじゃないですか。違うだろ、俺だろって思いました。そこは納得できなかったけど、自分の目の前で壮馬は中嶋からベルトを獲った。それに関しては不満もないです。中嶋戦前の壮馬のインタビュー、読みましたよ。あれは壮馬の気持ちがすごく伝わったし、理解もできた。でも、試合に関しては「なんだあれは?」でした。

——どうということですか。

**伊藤** 中嶋勝彦に対してです。おまえはそんなんで負けるやつじゃないだろうって。これまでの実績からしても、あの負け方には疑問符しかつかなかった(4ロストポイントを先制しながら、スリーパーホールドで落とされる)。いや、壮馬に対してはなんの文句もない。それほどの執念で絞めたと思うし。だけど僕から見たら、中嶋勝彦は手を抜いたとしか映らなかった。なんですかね、荒らすだけ荒らして勝手に区切りを

つけて、勝手に去っていくつもりかよ!としか思えなかった。

——二人のタイトル戦を花道奥で見ている、敗れた中嶋選手が去るさい伊藤選手に近づいて耳打ちのようにささやいていました。

**伊藤** 「これから頑張れよ」みたいなことを言っていました。僕は返事もしませんでした。それこそフザケンな!じゃないですか。ナメたようなことを言ってきたからカットになったんですけど、向こうは絞め落とされたダメージもあるからそこでやり合うのはフェアじゃないし、伊藤は何、手を出してんだって受け取られかねないと思ってあそこはこらえたんですけど、あれも中嶋的にはわざとやっているんでしょ?意味深なことをやっているように見せて、こんなもんでいいだろ?って挑発じゃないけど、こっちをナメた態度で来たにすぎないんだなと思いました。

——ご自身は次期挑戦者決定戦で井土選手を破ったわけですが、あの試合は手応えがあったんじゃないですか。

**伊藤** 僕は井土のことを一緒にLIDET UWFを大きくしていく存在だと思っているから、やはり同じ方向性の相手とやると楽しささえ感じましたね。UWFルールって、本来は楽しさなんて感じる余裕はないんですよ。一瞬で関節を極められたり、打撃でいいモノが入ったりしたらそこで終わりだから、やっている最中はそんな余裕もない。だから、楽しさを感じるのは試合が終わってからなんです。でもあの時は、やっている最中に「うわー、楽しいわ!」って思って。殺伐感もあったけど、それを高揚感が上回ったというかハイになったんだと思います。

——あの試合をやる時点で、壮馬選手がベルトを獲ったら封印するかもと発言していたので、気持ちの向け方が難しいのではと思ったんです。挑戦権を手に入れても封印されたら挑戦できないわけですから。

**伊藤** そこは、やる前から「俺に勝ってから言え」という気持ちだったから、壮馬がどうしようと試合に臨む上での姿勢は変わらなかったです。実際、壮馬も次の挑戦者が決まっているのにその前に封印したら逃げたと思われかねない。だから、リング上では言わなかったと思うんですよ。

——なるほど。インタビューでは、リング上で封印するか否かを口にするというように言っていたのに、そうしなかったのは…。

**伊藤** まあ、あの場で封印を宣言しても僕がさせなかったですけどね。僕にはその権利がありますから。あいつにはあのトーナメントを経験して、ハードヒットにも出てこまでやってきたんだから、その積み重ねてきたものをもっと広げろって言いたい。僕の中では、封印はあり得ないですから。なんのために苦しく、怖い思いをしてきたのか。あの気持ちを忘れるなよって壮馬に言いたいんで、それは次のタイトルマッチでぶつけます。



## UWFとLIDET UWFは違う 新しく創りあげる別ものです

――4・8新宿FACEで伊藤選手が獲れなかった場合は、それこそ牡馬選手がやるべきことをやったと受け取って封印しかねないので、次のタイトルマッチはLIDET UWF世界王座の存続が懸かっています。

**伊藤** LIDET UWFを思うがゆえに封印するという人間と、絶対に封印させたくない人間、どちらの思いが強いかじゃないですか。通常のプロレスルールとは違って、そこはプロレスラー同士だからあのルールに基づいて表現や動機をぶつけ合う場だと思います。

――そこまでLIDET UWFを続けたいと思う根源には、何があるんでしょうか。

**伊藤** 初代王者になって描いていたものと比べると、この現状は不満でしかない。僕はもう一度ベルトを巻いたらやりたいことがあって、これまでLIDET UWFルールでやって負けた選手一人ひとりにリベンジをしたいんです。ベルトが懸かれれば、一度勝ってももう一度やるってなるじゃないですか。だから僕には、あのベルトが必要なんです。そして、まだこのルールでやっていなくて対戦したい選手もたくさんいる。それがLIDET UWFを大きくしていくことにつながると思うし。

――伊藤選手はUWFのムーブメントをリアルタイムで見たわけではないですよね。普通、Uにこだわりを持つのはあの時代に経験した選手や、実際に見て熱狂した人間になるわけですが、なぜ自身が通過してこなかったスタイルに対しそこまで自分を注ぐことができるのでしょうか。

**伊藤** 正直、GLEATに入ってこれを始める時点で、そういう気持ちがあったわけではなかったんです。でも、続ける中で自然と責任感が湧いたのかもしれない。UWFルールとG PROWRESTLINGの二刀流に関して自分の中でこだわりがあるし、あとは…僕らは最初、田村潔司から入ったじゃないですか。正直、苛立ちの方が強いんで。

――苛立ち？

**伊藤** 田村潔司発信で始めたLIDET UWFなのに、自分で始めたクセに放ったらかして、捨てていった。僕からすると中嶋勝彦と同じです。

――でも、LIDET UWFを始めるにあたり田村エグゼクティブディレクター(2025年12月31日をもって退任)の指導を受けたんですよね。

**伊藤** 今まで言ってこなかったですけど…僕は練習も誰よりも真面目にやったし、細かいところまで言ったら声も出してやっていました。それを見ていない日もあって、見ていない上で「あいつはやる気がない」ってとらわれたんです。それで、いつの日か練習メンバーからも外されて…名前は伏せますけどこいつ、頑張りが足りないんじゃない

いの?と思う人間が呼ばれるという。それに対し、ずっと「なんでだ?」という気持ちが強かったんです。

——そうだったんですね。

**伊藤** 頑張るなんて当たり前なことなんだけど、見てもいないのにやる気がないって思われたら、僕は理不尽にしか思えなかった。その揚げ句にLIDET UWFを捨てていった人です、僕にとっては。だからね、見返したいんですよ。このルールによる闘いをもっともっと広げて、もうあの人が出ざるを得ない状況を作りたい。

——田村潔司を見返したい。

**伊藤** だから、師匠だとは思っていないです。むしろ「フザケンナ!」の方が強いですね。今に見てるよ!ですよ。僕には、その責任があります。ただ、それにはベルトが必要なんで封印はさせないです。田村潔司とベルトの存在が自分を突き動かします。

——チャンピオンになった壮馬選手とのタイトルマッチはどのようにシミュレートしていますか。

**伊藤** これまでの試合を見た限り、トータルで自分が負けている要素はないです。ただ一発の蹴りだったり、この前見せたようなガムシャラな気迫?その付け入るスキさえ見せなければ必ず勝てます。

——あとはお互いのこだわりのぶつけ合いですね。壮馬選手は、壮馬選手なりのこだわりゆえに封印せんとしているわけですから。

**伊藤** あいつが封印を口にしてるのは、LIDET UWFが中途半端になるぐらいなら…ということですよ。だったら二人で中途半端じゃないLIDET UWFをやれば封印する理由がなくなるわけで。4月8日は、そういう試合をやった上で僕が勝ちます。——見る側がLIDET UWFに乗れない理由の一つに、ビジョンや将来的な具体性が見えづらい部分があるからだと思うんです。でも、話をお聞きしてそのあたりが明確になりましたし、リアルな動機もわかりました。

**伊藤** 初代王者を決めるトーナメントの時って、ファンの皆さんもワクワクしていたじゃないですか。今の時代にUWFをやることでどうなっていくんだろうっていう期待感があった。僕はそれを取り戻したい。ビジョンを持った人間がベルトを巻くことで、それを形にしていけると思うんです。

——一つ確認です。伊藤選手はかつてあったUWFと、これからGLEATがやろうとしているLIDET UWFは別モノという認識ですか。

**伊藤** 別です。違うものです。そこは一緒のものと考えてほしくない。昔のUWFを見ていた人がLIDET UWFに対しやいのやいの言いますけど、新しく創りあげるものだから。ただ、その違いがわかりづらいのも承知しています。同じルールでやっているし、UWFの三文字を名乗っていたら、同じと受け取られるでしょう。だから、これが

らそこを明確にしていくのも僕のやるべきことだと思っているし、難しい試みではありませんけど僕はやっぱり、投げ出したくはないんですよ。



## 交通事故は河上の祭壇のせい シュークリーム1個で許せない

——わかりました。一方G PROWRESTLINGの方ですが、河上隆一選手に対してはある程度信用しているんでしょうか。

**伊藤** (光の速さで)許してないですよ。

——許していない!

**伊藤** こっちはユニット(やんず家)を解散させられるわ、ボコボコにやられるわで、さんざんな目に遭わされて、なのに「憶えてない」だとか「あれは自分じゃない」だとか、とぼけるのもいい加減にしるですよ。Xにも書きましたけど、菓子折り一つでも持ってくるのが誠意というものじゃないですか。

——シュークリームを持ってきたんですよ。

**伊藤** 持ってきましたよ。コンビニで買ってきたのを1個だけポンツと置いて、それだけ。謝罪の場を設けてほしいとか言いながら「これ、菓子折りね」って渡して、去っていきました。あいつ、コーギーコーナーのシュークリームを買っていくって言っていませんでした?

——あのう、シュークリームを持っていったのって横浜のラジアントホールだったじゃないですか。どうやら関内駅前のコージーコーナーが昨年12月30日をもって閉店したようで、買えなかったそうなんです。間が悪いというか…。

**伊藤** だとしたら、関内中のメジャーなコンビニを回って全種類を買ってくるぐらいの姿勢を見せなさいよ。こういうのは、姿勢が何よりも大事じゃないですか。

——おっしゃる通りです。

**伊藤** コージーコーナーのシュークリーム詰め合わせを持ってくるぐらいの案件を、コンビニのスイーツ1個で済まそうって…全然謝る気ないじゃん。自分で「GLEATの太陽」とか言っているけど、それが太陽の態度かよと。そもそもブラスナックルJUNにも僕はリベンジしていないんで、反GLE MONSTERSに関しては何も清算されていません。

——まだ河上選手と同じチームになるカードは組まれていないですが、組まれたらどうしますか。

**伊藤** 今のままだったら、絶対にうまくいかないです。

——エル・リングマン選手や山村武寛選手、石田凱土選手などはわりと受け入れているようですが。

**伊藤** みんな、昔のことを忘れたのかよ！って言いたい。シャーマンだとかなんとか言って祭壇を作ったじゃないですか。僕はあれで交通事故にあったのかもしれないです。あいつがシャーマンになって以来、僕はケガだらけですよ。

——うわー…そんなに呪術の効果が。

**伊藤** だから組めないです。

——その河上選手を追放したブラスナックルJUN選手に関しては？

**伊藤** あいつも、僕が腕をやられてそれが原因で手術しているので、その復讐をする機会がようやく来たかと。しょせん武器を使って反則しかできないただのザコモヒカン野郎ですから。

——あっちがザコだと。

**伊藤** ザコじゃなく、クソザコですよ。だいたいザコ、ザコとバカの一つ覚えみたいになっているやつこそが一番ザコじゃないですか。ブラスナックルなんてだせえ名前より「ザコJUN」に変えた方がいい。

——ザコJUNって、まるで松潤みたいですね。一応、プロレス総合学院の先輩に当たるのですが。

**伊藤** 今になって、1期生ってみんな変わってしまいましたよね。立花誠吾もあんなふうになるなんて、思っていなかったじゃないですか。

——素朴な青年でした。頓所隼は、あの時点でちょっと独特でしたが。必ず火曜は謎



に休むとか。

**伊藤** 年下ではありますけど、先輩としては悪い人じゃなかったですよ。何があったのか…今となってはザコい印象しかないんで。ただ、反則されて凶器を使われてもザコに負けたらこっちもザコと思われてしまうんで。まあ、更生させますよ。河上のような戻り方はアレな感じなので、普通に躑けて更生させます。憶えがないとか自分じゃないとか、そういうのじゃなく自分がやってきた罪に対しちゃんと反省した上で、頓所隼に戻しますから。反省といたら、坊主ですよ。あのモヒカンを刈りあげて、丸坊主にしないとな。

——日本のスタンダードな反省の見せ方です。

**伊藤** なので、どこかでシングルを組んでもらって更生マッチを。

——「ブラスナックルJUN負けたら即更生丸坊主スペシャル」ですね。本来であれば、5月より開催される「G-CLASS 2026」にエントリーされれば、そこでブラスナックル選手とのシングルマッチが実現したかもしれません。残念ながら伊藤選手はエントリーされずで…。

**伊藤** それも不満じゃないですよ！LIDET UWFのタイトル戦があるから入っていないんですか？

——どうなのでしょう…確かに牡馬選手も入っていないですが。

**伊藤** だったら一人ひとりとシングルマッチでやって、全員倒してやるっていう気持ちですよ。僕は河上にもシングルで負けたことがないですから。去年はまったく稼働できなかった分、溜まりに溜まっているんで今年はそれをG PROWRESTLINGでもLIDET UWFでもぶちまけます。僕はネガティブをポジティブに転換するのは得意な方なんでLIDET UWFにしろ、あるいはGLEAT自体がネガティブな状況にあったとしても、それをひっくり返してこそ伊藤貴則だと思ってください。まずはLIDET UWFのベルトを自分の腰に戻して、中嶋勝彦が崩したLIDET UWFを建て直した上で、リベンジすべき相手を倒して…今は名前を伏せますが闘いたい人もいるので、それらを実現させていきます。